

## 2-7 水道料金

(1) 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度

問 水道料金は、基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることをご存知ですか。

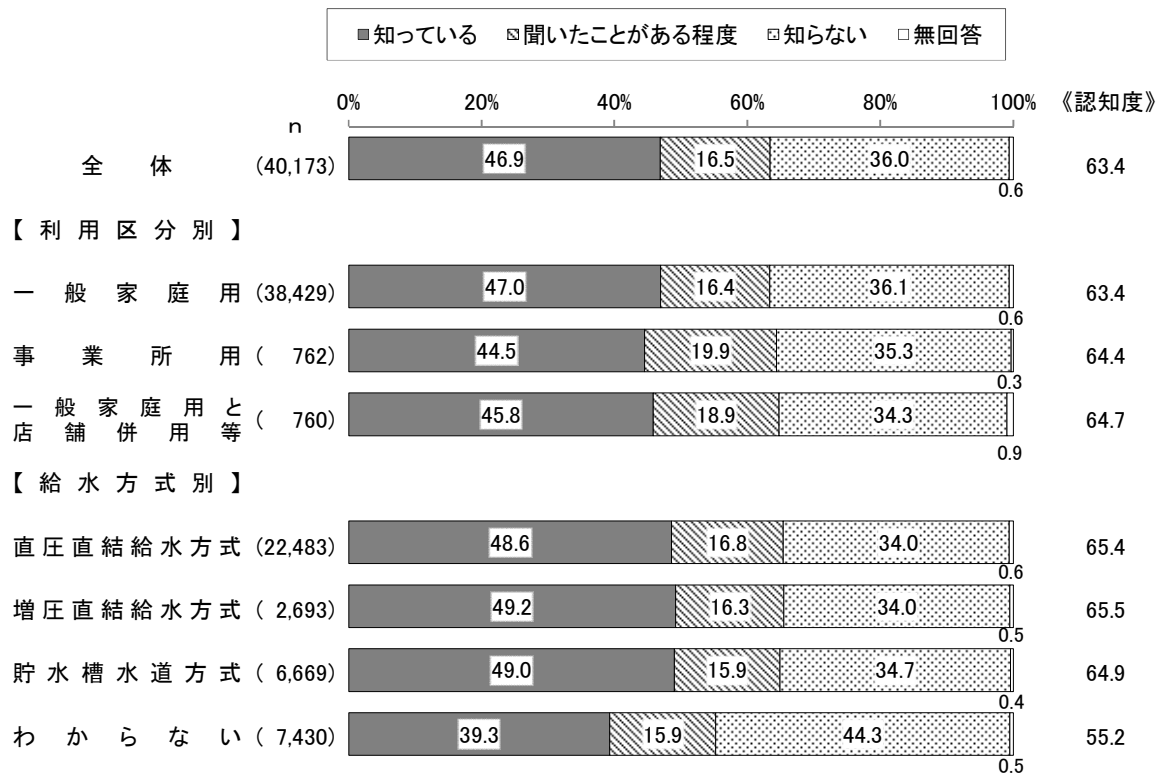
1) 知っている                      2) 聞いたことがある程度                      3) 知らない

[A : 問 14]

[調査結果]

① 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度

(利用区分別、給水方式別) <図表 2-7-1>

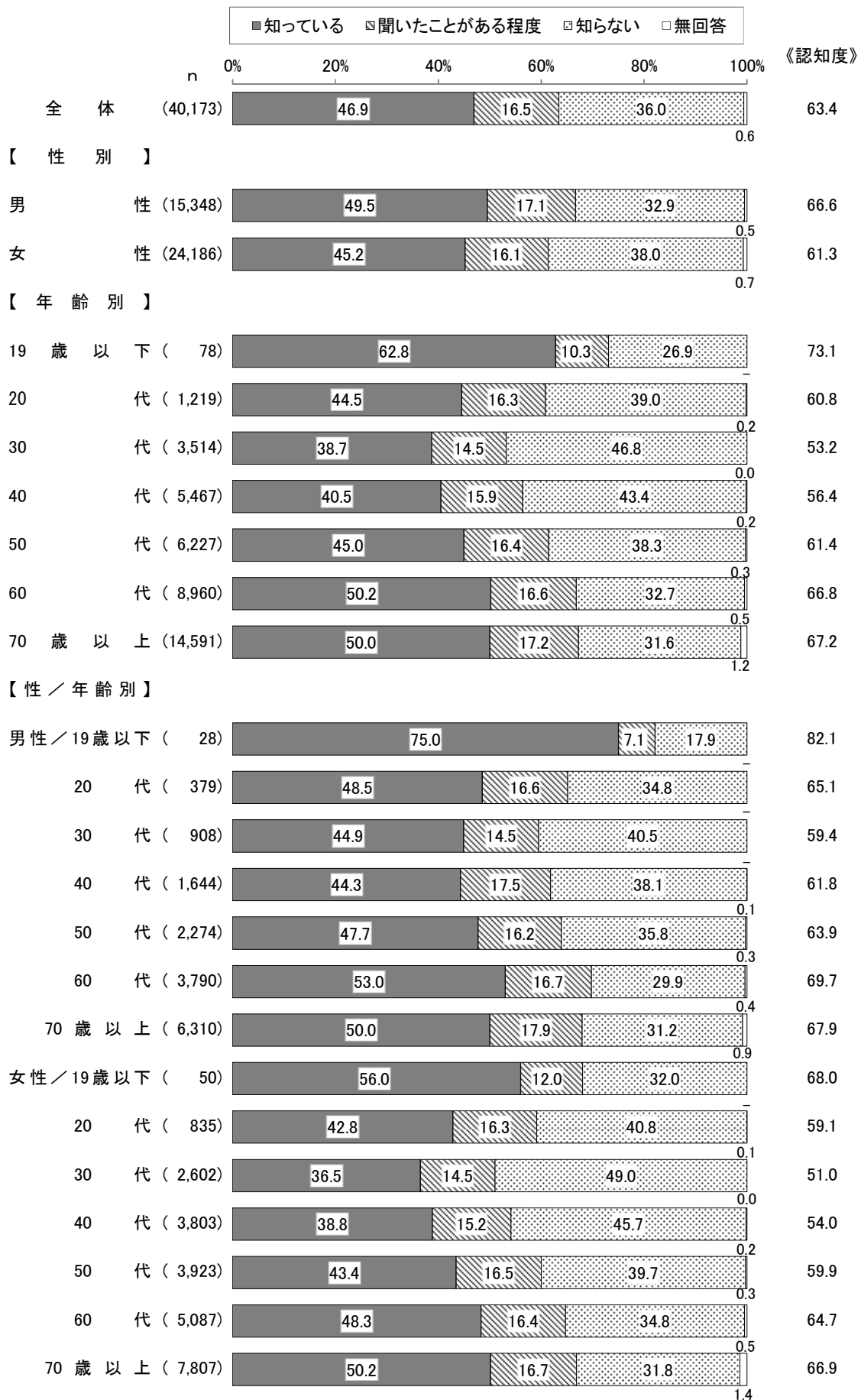


<特徴>

- 全体で見ると、「知っている」が46.9%で最も高く、「聞いたことがある程度」(16.5%)と合わせた《認知度》は63.4%となっている。一方「知らない」は36.0%となっている。
- 利用区分別では、特に大きな違いはみられない。
- 給水方式別では、特に大きな違いはみられない。

② 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度（属性別）

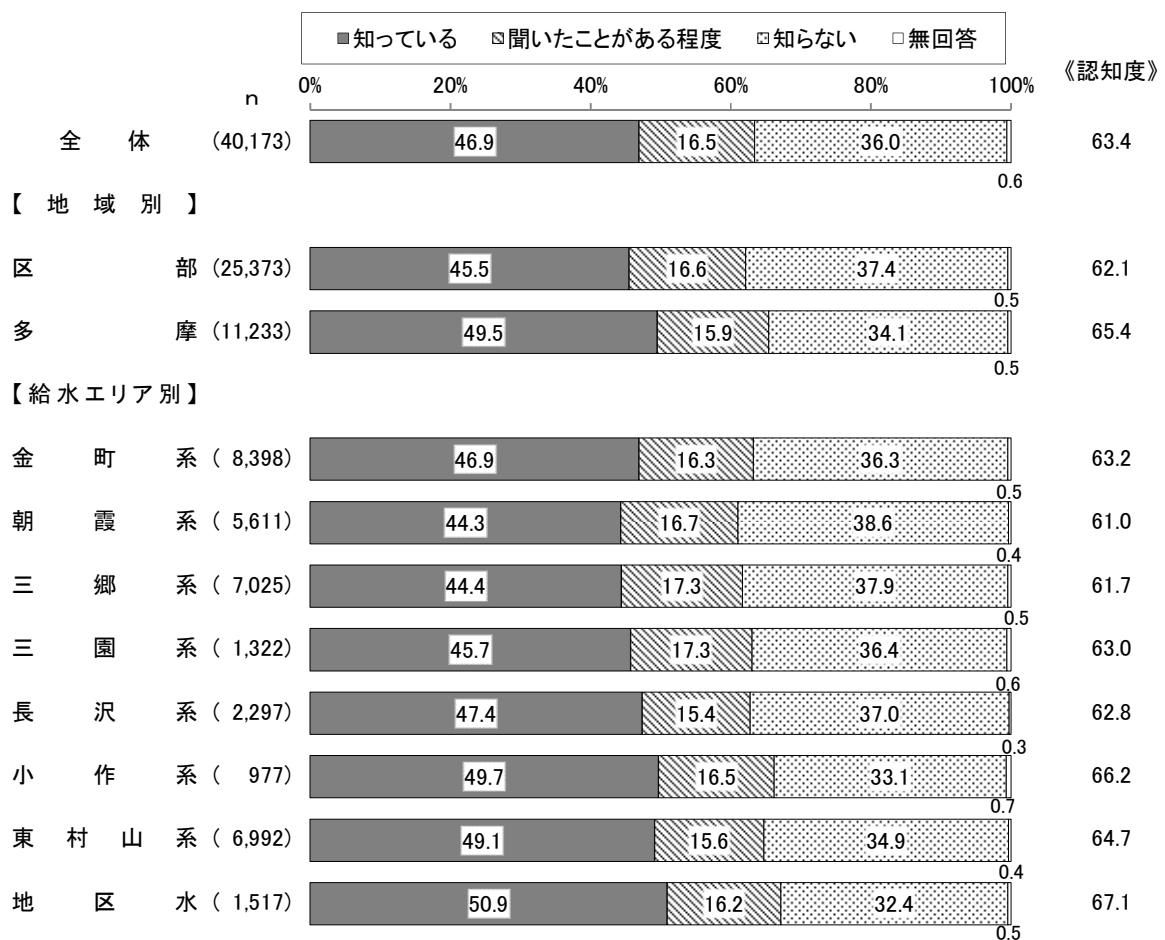
〈図表2-7-2〉



<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（66.6%）の方が女性（61.3%）より5.3ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、19歳以下（73.1%）で最も高く、70歳以上（67.2%）、60歳代（66.8%）と続いている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男性の19歳以下（82.1%）が最も高く、男性の60代（69.7%）、女性の19歳以下（68.0%）と続いている。

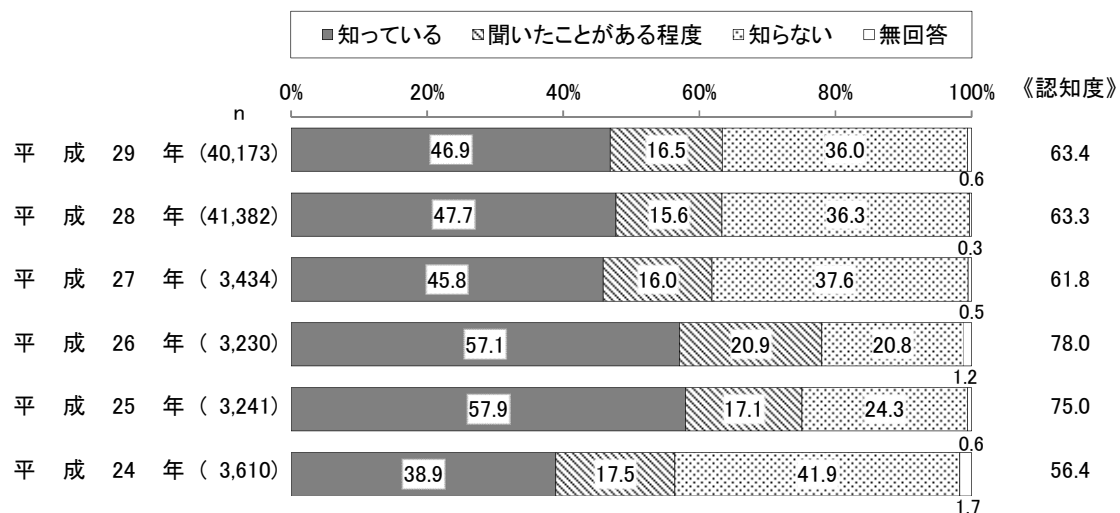
③ 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度（地域別、給水エリア別）  
 〈図表2-7-3〉



- 地域別では、《認知度》は、多摩（65.4%）の方が区部（62.1%）より3.3ポイント高くなっている。
- 給水エリア別では、《認知度》は、地区水（67.1%）で最も高く、小作系（66.2%）、東村山系（64.7%）と続いている。

④ 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度（時系列：全体）

〈図表 2-7-4〉



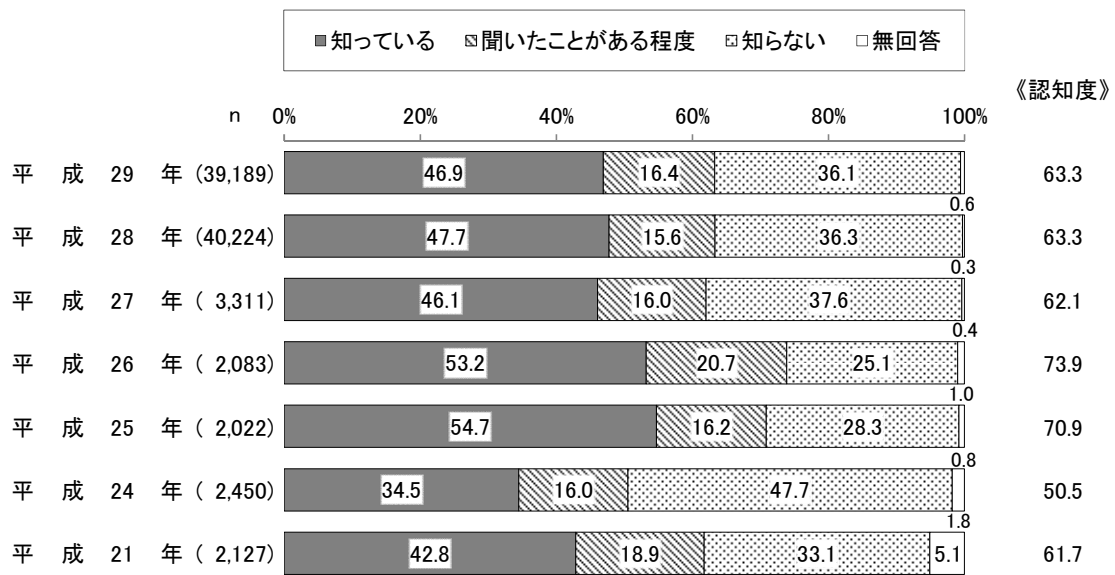
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、《認知度》は、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《認知度》が6割強から6割台半ば近くの間で推移している。

⑤ 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度

（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）〈図表2-7-5〉



<特徴>

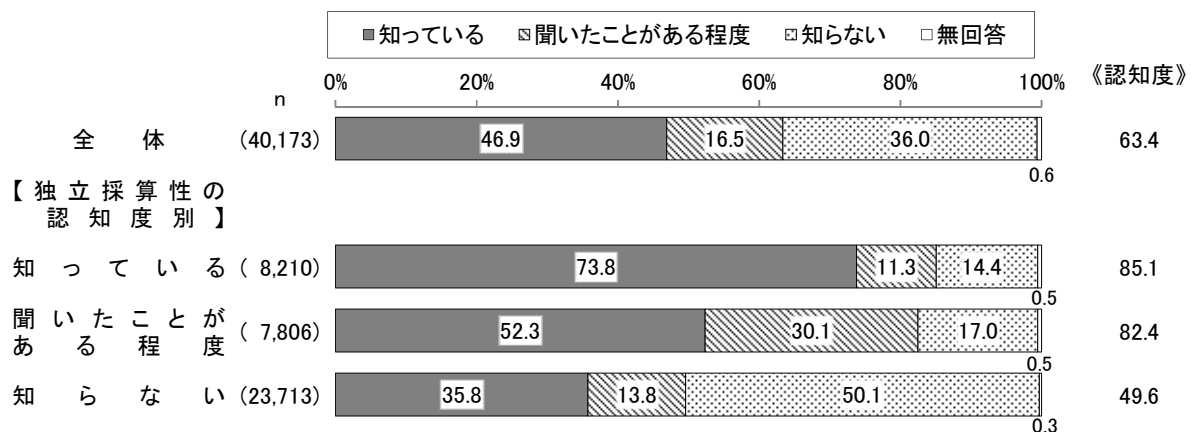
○前年度調査との比較では、《認知度》は、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《認知度》が6割強から6割台半ば近くの間で推移している。

[詳細分析]（分析の軸はA票の設問）

⑥ 基本的には使用量が多くなるほど単価（従量料金）が上がることの認知度（独立採算性の認知度別）

〈図表2-7-6〉



<特徴>

○独立採算制の認知度別での従量料金の《認知度》は、独立採算制を知っている人が85.1%で最も高く、単に「知っている」でも73.8%となっている。

(2) 水道局が、水道料金により独立採算性で事業運営していることの認知度

問 水道局は、水道料金により独立採算性で事業運営していることをご存知ですか。

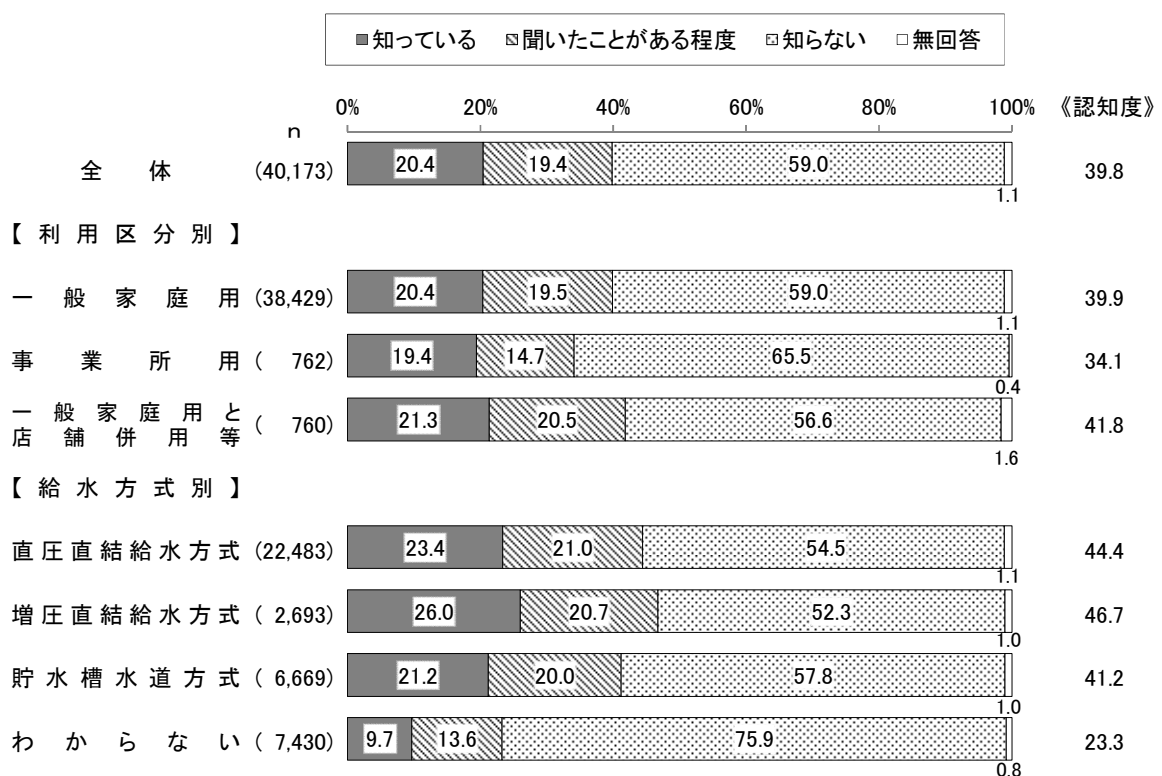
- 1) 知っている                      2) 聞いたことがある程度                      3) 知らない

[A : 問 15]

[調査結果]

① 水道局が、水道料金により独立採算性で事業運営していることの認知度

(利用区分別、給水方式別) <図表 2-7-7>

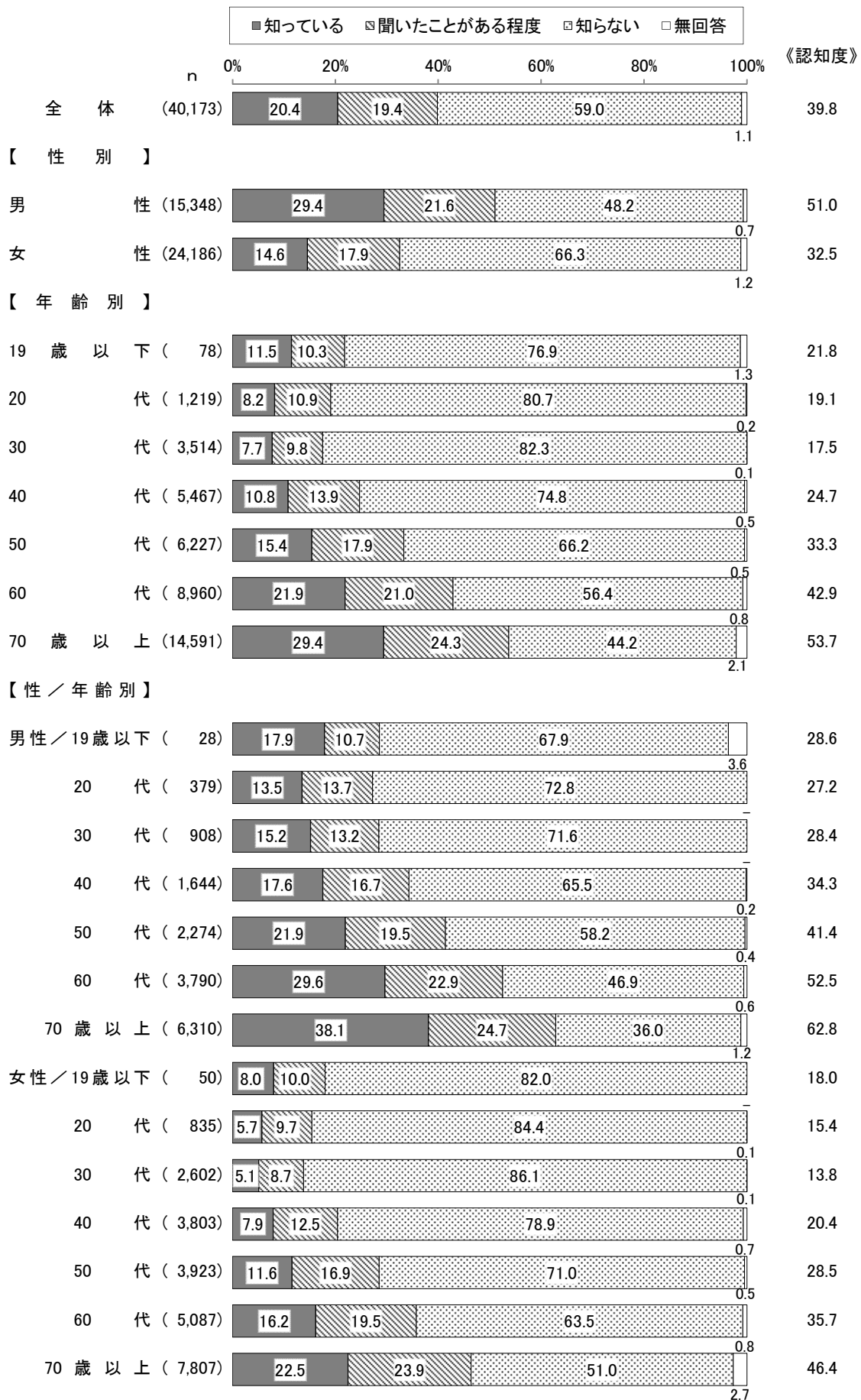


<特徴>

- 全体で見ると、「知らない」が59.0%で最も高くなっている。「知っている」(20.4%)と「聞いたことがある程度」(19.4%)を合わせた《認知度》は39.8%となっている。
- 利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で41.8%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、《認知度》は、増圧直結給水方式が46.7%で最も高くなっている。

② 水道局が、水道料金により独立採算性で事業運営していることの認知度（属性別）

〈図表2-7-8〉

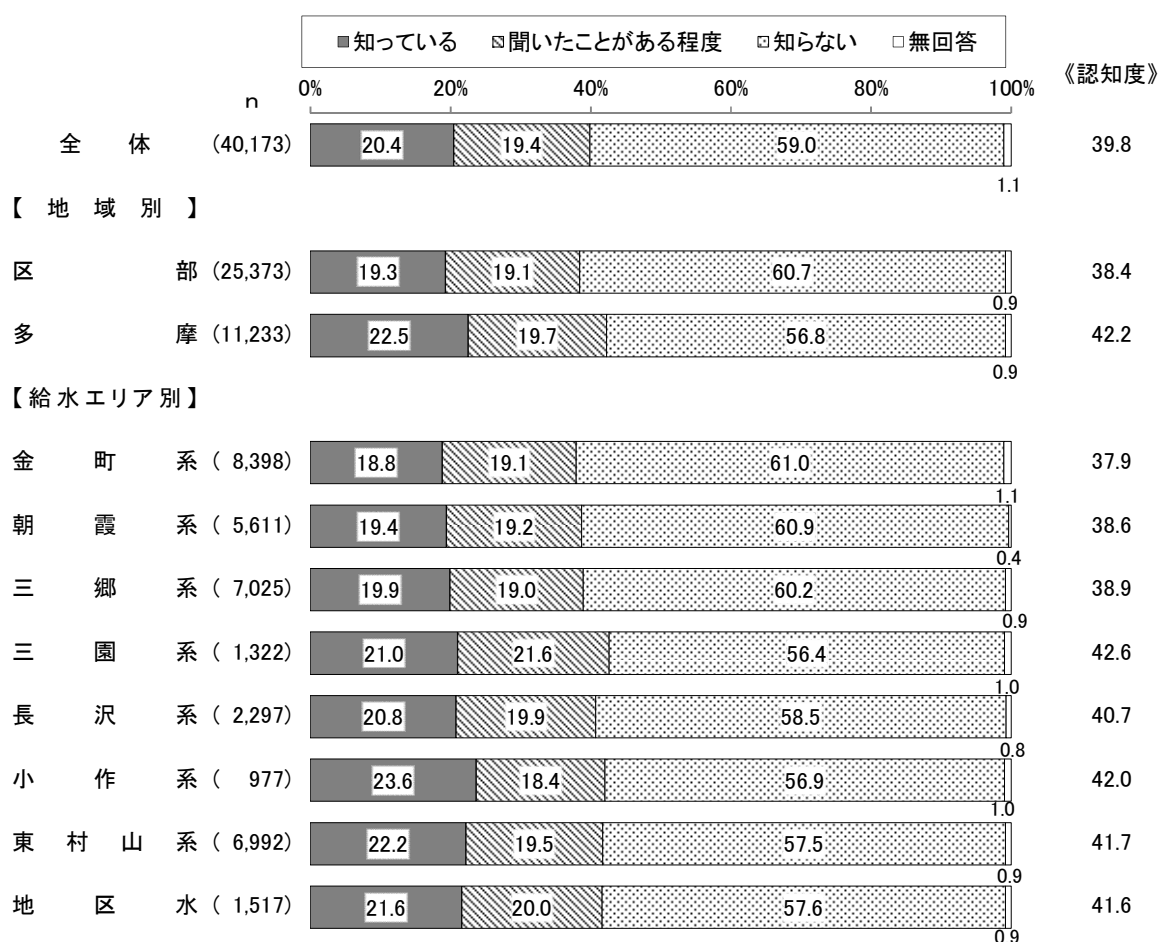


<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（51.0%）の方が女性（32.5%）より18.5ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、30代（17.5%）で低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（53.7%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男性の70歳以上が62.8%で最も高く、次いで男性の60代（52.5%）となっており、全ての年代で男性の方が女性よりも高くなっている。

③ 水道局が、水道料金により独立採算性で事業運営していることの認知度（地域別、給水エリア別）

〈図表2-7-9〉

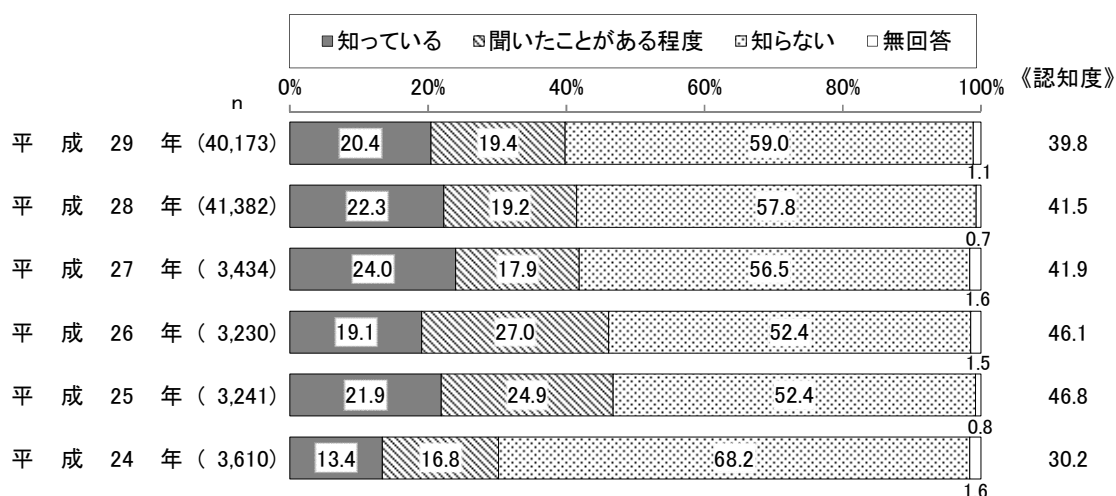


- 地域別では、《認知度》は、多摩（42.2%）の方が区部（38.4%）より3.8ポイント高くなっている。
- 給水エリア別では、《認知度》は、三園系が42.6%で最も高く、次いで小作系（42.0%）となっている。



④ 水道局が、水道料金により独立採算性で事業運営していることの認知度（時系列：全体）

〈図表2-7-10〉



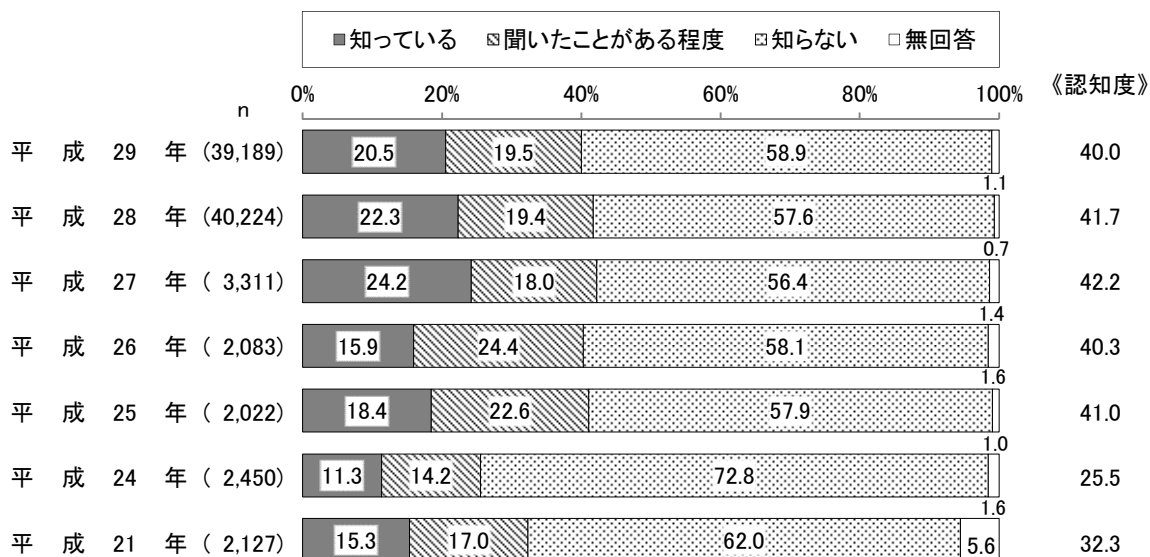
〈特徴〉

○前年度調査との比較では、《認知度》は、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《認知度》が4割前後で推移している。

⑤ 水道局が、水道料金により独立採算性で事業運営していることの認知度

（時系列：「一般家庭用」と「一般家庭と店舗併用等」の合計）〈図表2-7-11〉



〈特徴〉

○前年度調査との比較では、《認知度》は、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成29年度までの3年間の傾向でも、特に大きな違いはなく、《認知度》が4割から4割強の間で推移している。